



第3章 緊急地震速報の利活用

3.1 緊急地震速報を受信するには

テレビ・ラジオ・携帯電話などで、緊急地震速報（警報）を受けることができます。

一方、職場や学校そして自宅などの特定の場所がどのように揺れるか詳細な情報を知りたい時は、専用受信端末で緊急地震速報（予報）を配信事業者から受信します。専用受信端末では、24時間いつでも、その場所の揺れの強さや強い揺れが来るまでの猶予時間（秒）などピンポイントの情報が受けられます。

マンション等の集合住宅ではインターホンの機能を利用したり、公共施設や百貨店などでは専用端末の情報を館内放送などで知らせているところもあります。通信回線としてはインターネット、ケーブルテレビなどが使用されます（図12）。

専用受信端末の販売や配信事業者については、緊急地震速報利用者協議会の関連事業者紹介ページを参照してください。

https://www.eewrk.org/eewrk_members-hp/eewrk-hp_katsudo-top.html

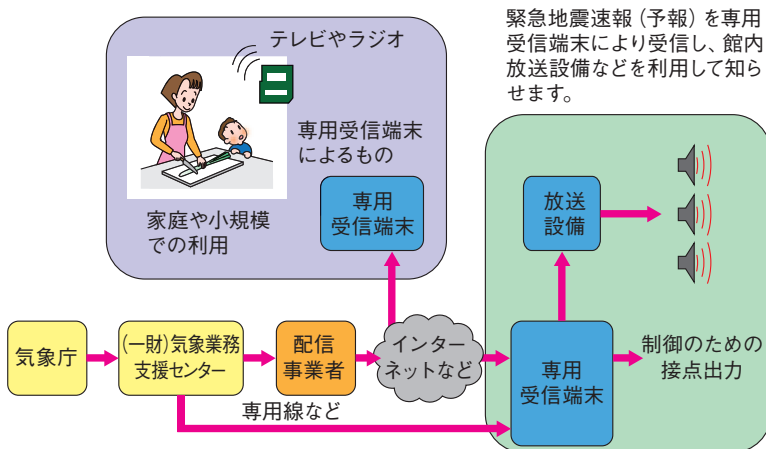
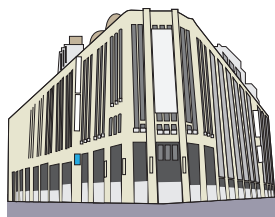


図12 緊急地震速報の受信方法

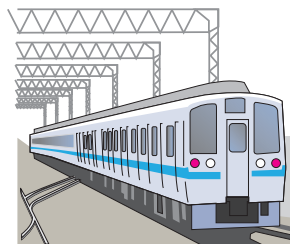
3.2 緊急地震速報（予報）の具体的な利用事例

緊急地震速報（予報）を利用する場合、多くの人が集まる場所でのパニックなど社会的な混乱を回避するため、それぞれの場所における利用方法や伝達方法は異なります。ここでは、百貨店、鉄道、保育園や幼稚園、学校、病院、工事現場、職場、家庭、高い建物などでの利用事例を紹介します。



百貨店などでは

館内放送で地震が発生し、大きな揺れがくることを放送している百貨店もあります。このような場合は、直ちに安全な場所で身の安全を図ります。また、従業員がお客様の安全確保、避難行動の誘導を行います。集客施設では地震発生時に混乱が起らないよう、常に訓練が行われ、迅速な対応や行動ができるようにしており、従業員の指示により行動することが大切です。



電車内では

JR 各社を含め、私鉄・地下鉄等の鉄道事業者が緊急地震速報（予報）を利用しています。これらの鉄道事業者は列車の運行を管理している運転指令室から全ての列車に対して地震に関する情報を送信し、各列車に、減速や停止などの運転指令を行います。乗客へは車内放送によりお知らせしますので、乗務員の指示に沿った行動をとりましょう。なお、車内放送の内容は各社によって異なります。

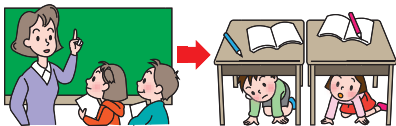


保育園や幼稚園では

小さなお子さんは地震が来ても自分では行動判断ができないため、先生が避難誘導を行います。あらかじめ危険回避の方法や、各先生の役割分担等を決めておき、緊急地震速報（予報）を見聞きしたらまずは安全

を確保し、避難します。日頃から避難誘導訓練等を行うことも大切です。

東北地方太平洋沖地震の際、緊急地震速報を利用したことで多くの園児の身の安全を確保することができた事例がありました。



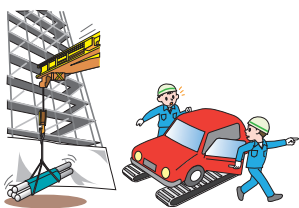
学校では

緊急地震速報（予報）を利用して、大きな揺れが来ることを校内放送によりお知らせし、安全な場所へ避難し安全を確保するよう備えています。また、様々な場所での安全確保、どこが安全な場所か考えるなど、訓練と学習を通じて、地震に備えている学校もあります。



病院では

緊急地震速報（予報）を利用して揺れが来る前に手術の一時中断や放射線を止め患者の安全を確保するなどの対応を行っています。また、歯科医院では治療中の揺れは危険を伴うことから、危険回避を行っています。



工事現場や工場では

緊急地震速報（予報）を利用してあらかじめ大きな揺れが来る前にクレーンの吊り下げ物を安全な場所に降ろしたり、作業員の転落防止などの安全確保を行っています。また、薬品や重量物の落下などを回避する対策や、精密機器の製造工程の一時停止などにも使用されています。

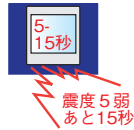


自動車運転中は

あわてることなくスピードを落とし、ハザードランプ点灯で、後続車両に注意を促すなどの安全確保に利用されています。大きな揺れが予測されているときには、道路の左側に停止するなどの対応にも活用されています。

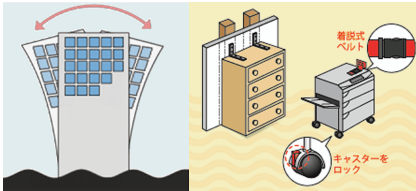


専用受信端末



家庭では

常時接続型のインターネットに接続した緊急地震速報（予報）の受信端末でその場所に大きな揺れが来ることを知ることができます。倒れてくる物や火のそばから離れるなど、いち早く身の安全を確保することができます。



高い建物では

高層ビルや高層マンションの高さなどによって、遠方で大きな地震が発生した際に、地表では揺れが大きくなって、高層階では長周期地震動によるゆっくりとした揺れがどんどん大きくなることがあります。

このような場合でも、緊急地震速報（予報）の専用受信端末を用いると揺れが大きくなる前に、館内放送でお知らせしたり、エレベーターを最

寄りの階に停止させ閉じ込めを防止したり、接点出力を利用してさまざまな機器を制御したりできます。また建物の固有周期に合わせて緊急地震速報（予報）を用いることで、より適切な予想に基づいた対応をとることができます。

家具類や照明器具などが「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見ましょう。地震の前に、家具類が倒れたり移動したりする場合に備えて、家具類等を固定しましょう。

地震が来ることが分かったら、**落ち着いて**…

- 1 吊り下がっている照明などの下から退避し、丈夫な机の下などに隠れ、身の安全を確保する。
- 2 扉を開けて避難路を確保する。
- 3 無理に火を消さず、火に近づかない。
- 4 出口、階段などに殺到したりせず、落ち着いて行動する。
- 5 近くに人がいたら、声を掛けて安全な場所に誘導する。
- 6 防災担当者の指示を受け避難行動をとる。



《ピクトグラム》

本協議会では、平成19年に緊急地震速報のピクトグラムを制定しました。

緊急地震速報の認知度の向上や大きな揺れが来る前の適切な対応行動の啓蒙のために、地震による被害の防止・軽減のために、活用ください。



あたまをまもる



かぐからはなれる



へいからはなれる



落ちてくる
ものにちゅうい



あわてて外に
とびださない



近くの階でおりる



急ブレーキを
かけない



ハザードランプ
をつけて減速

(緊急地震速報利用者協議会ホームページからダウンロードできます。)

3.3 緊急地震速報（警報）の利用

緊急地震速報（警報）はテレビ・ラジオ・携帯電話などを通して多くの人に提供されます。

テレビ・ラジオ

気象庁から緊急地震速報（警報）が発表されたことを報知するチャイム音とともに画面上に文字スーパー（テロップ）が表示されます。緊急地震速報が発表されたことを報知するチャイム音を聞き、その対象地域が自分のいる場所のときは直ちに身の安全を図りましょう。警報の対象地域以外の地域にも放送されたりすることから、どの地域に強い揺れが来るかは、画面や音声の情報で判断する必要があります。また、緊急地震速報（警報）が更新されて警報の対象地域が拡大することもありますので、対象地域外にいる場合でも念のため身の安全を確保しつつ、引き続き画面や音声の情報にご注意下さい。テレビ・ラジオの電源が入っていないか、夜間の放送停止中では受信できません。また、緊急地震速報のチャイム音を検出して自動的に音量を上げる機器もありますが、これはチャイム音が聞こえない場合があります。なお、震度5強以上が予想された場合から緊急地震速報を放送する局もあります。



携帯電話

緊急地震速報（警報）の対象となる地域内の基地局を使用している携帯電話に対して一斉にメールが配信されます。このメールは、通常の携帯メールとは異なり、同時に多数に送られ、緊急地震速報用の着信音が鳴ります。この音を聞いたときは、大きな揺れが来るおそれがありますので、直ちに身の安全を図りましょう。機種によっては緊急地震速報に対応していないもの、受信のために設定が必要なものがあります。

スマートフォンのアプリなどで緊急地震速報（警報）ではなく、緊急地震速報（予報）を利用できるものもあります。このようなアプリの利用では、4章で説明するガイドラインの内容を十分に理解することが必要です。

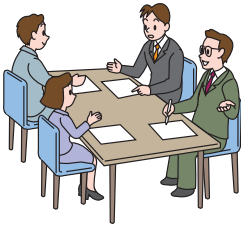


3.4 日頃から考えておくこと

緊急地震速報を見聞きしたときに速やかに行動を取るためには、日頃から十分に訓練を行うことが重要です。企業や施設などでは、防災担当者などが、従来の火災や地震発生時の訓練に緊急地震速報を見聞きした際の行動も加えた活用方法を検討します。また、家庭においては、緊急地震速報を受信した時にどうするかを家族で話し合っておくことで、いざという時に落ち着いた行動をとることができます。

職場や学校などでは

防災訓練において、緊急地震速報の受信方法、受信後の行動計画を確認することが重要です。企業や学校などでは、専用受信端末や放送設備などを介して伝達する方法が一般的です。日頃から、どのような条件で、どのように情報が伝達されるかを職員へ周知し、いざと言う時に備えましょう。

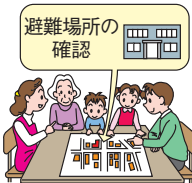


- 緊急地震速報に関する基本知識を共有します。
- 防災管理者等は避難誘導の指針を確認します。
- 受信端末機器や関連装置の動作を定期的を確認します。
- 緊急地震速報を受けたことを想定した訓練を実施します。

家庭では

家族で緊急地震速報を受信した時の行動を考えましょう。また、学校や屋外での行動も家庭で話し合っておきましょう。

半年に1回程度家族揃って訓練をし、問題点の整理や対策、避難などに関する家庭内防災会議を行きましょう。



家庭内防災会議

- 緊急地震速報に関する知識を深めます。
- 家具の転倒防止など地震対策を行います。
- 地域での防災活動などを通じて実践します。
- 安全な場所、家族の連絡方法を、いろいろな場面について、家族で話し合います。

3.5 地震の前に決めておくこと

地震はいつ起こるかわかりません。夜寝ている時、朝ご飯を食べている時、通勤・通学時間、工作中や学校、買い物をしている時…、それぞれの状況に応じて適切な行動をとり身の安全を確保することで、被害を最小限にすることができます。

施設管理者は「緊急地震速報の利活用の手引き（施設管理者用）Ver.1.0」をしっかりと理解して、施設における安全な場所や避難方法等を決めておくことが大切です。

気象庁の緊急地震速報の利活用の手引き（施設管理者用）ページ
<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/katsuyou/tebiki.html>

表7の項目を定期的に確認しましょう。

表7 緊急地震速報チェックシート

	項目	内容	確認
職場や学校などでは	対応行動指針の作成	緊急地震速報を受信した時の行動指針を作成する	
	対応行動訓練	行動指針に基づいて訓練を行い、妥当性の確認を行う	
	訓練による問題点の洗い出し	様々な場面での問題点を洗い出し、必要な対応策を検討する	
	防災上の問題点の改善	洗い出された問題点を整理し、改善計画を立て実践する	
	防災対策会議による対策の進捗管理	設備改善や避難行動の周知徹底など、防災対策の進捗状況を確認する	
家庭では	緊急地震速報受信機器の確認	テレビ、ラジオ、携帯電話、専用受信端末などの受信機能の確認	
	対応行動訓練	緊急地震速報を受信した時の安全確保の訓練	
	家庭内防災会議の開催	家族の役割を決め、危険な場所を確認したり、連絡手段のルールを試して、どうしたら身の安全を確保できるか話し合う	